

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

# Pola-BR療法 [2コース目以降]

3 週毎 コース予定

疾患名 悪性リンパ腫

主治医 指導医 HBs抗原( )、HBs抗体( )、HBc抗体( )、HCV抗体( )

スケジュール

		day1	day2
リツキシマブ BS	375 mg/m <sup>2</sup>	↓	
ポライビー(ポラツズマブ ベドチン)	1.8 mg/kg	↓	
ベンダムスチン	90 mg/m <sup>2</sup>	↓	↓

- 【注意】
- \* リツキシマブ投与時は、体温・脈拍・血圧測定・SpO<sub>2</sub>測定を投与速度up直前におこなうこと。
  - \* ベンダムスチンは調製後6時間以内に投与を終了すること。
  - \* ポラツズマブ初回投与は90分かけて点滴静注し、忍容性が良好であれば2回目以降は30分まで短縮可。
  - \* ポラツズマブは投与量が75 mg以上の場合は生食100 mL、75 mg未満の場合は生食50 mLで希釈する。
  - \* ポラツズマブは0.2または0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること。
  - \* ST合剤およびアシクロビルの予防投与を検討すること。

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

day 1

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② イブプロフェン(100 mg) \_\_\_\_\_錠 デザレックス(5 mg) \_\_\_\_\_錠 内服
- ③ パロノセトロン 0.75 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 20 mL 側管静注

☆30分後より

- ④ リツキシマブ BS + 生食 適量 (10倍希釈)

\*注:総量 600 mLを超える時はテルモ生食1Lを使用

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注

- ⑤ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間 で点滴静注

- ⑥ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
  - ◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間 で点滴静注
- ⑦ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
  - ◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間 で点滴静注
- ⑧ ポライビー + 注射用水 適量 + 生食 100 mL 点滴静注90 分
  - ※ 75 mg未満の場合は生食 50 mLで希釈
  - (140 mg/Vは7.2 mL、30 mg/Vは1.8 mLの注射用水で溶解)
- ⑨ ベンダムスチン + 生食 50 mL 点滴静注10 分
  - ◎ 血管確保していた生食をベンダムスチンと同時滴下
- ⑩ 生食 200 mLを点滴し、残りは破棄

day 2

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20mL/時間)
- ② デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 20 mL 側管静注
- ③ ベンダムスチン + 生食 50 mL 点滴静注10 分
  - ◎ 血管確保していた生食をベンダムスチンと同時滴下
- ④ 生食 200 mLを点滴し、残りは破棄

day 3, 4

デキサメタゾン錠 8 mg 2× 朝昼 内服

	コース		コース		コース	
	day1	day2	day1	day2	day1	day2
月 日	/	/	/	/	/	/
リツキシマブ BS 開始時刻	↓					
ポライビー 開始時刻	↓					
ベンダムスチン 開始時刻	↓					
確 認						

	コース		コース		コース	
	day1	day2	day1	day2	day1	day2
月 日	/	/	/	/	/	/
リツキシマブ BS 開始時刻	↓					
ポライビー 開始時刻	↓					
ベンダムスチン 開始時刻	↓					
確 認						